

File.1

国会議員のレベルアップをはかる秘策のススメ

文 鈴木 正人 text by Masato Suzuki

最近とみに国会議員の劣化を感じている国民も多いのではないだろうか？例えば北朝鮮の核開発にともなう安全保障の議論も棚上げされたまま、野党が“モリ・カケ”の攻防戦を長期にわたって貴重な国会を費やしていたことは記憶に新しい。

ニュースやワイドショーでは、国策そっちのけで与党潰しにやっきになっている野党議員の姿がよく取り上げられているが、大半の質問内容は週刊誌以下の単なる揚げ足取りにすぎない。

例えば、パソコンが苦手な桜田義孝五輪相はサイバーセキュリティ担当大臣を兼任し、大臣の資質を問われ総バッシングされている。一方で彼はユニークな経歴の持ち主でもある。高校



卒業後、大工として働きたりしながら大学の二部に通い、土建業を起業した上で市議会、県議会を務めあげて国政に躍り出た叩き上げの苦

労人だ。



Profile
1968年東京都生まれ 大学卒業後芸人を自指すも挫折。
1993年河村たかし(現・名古屋市長)代議士秘書、その後上田きよし(現・埼玉知事)代議士秘書を経て、1996年27歳で志木市議会議員に初当選。
2005年埼玉県議会議員に初当選。市議会3期、県議会4期を務め、政治を身近にわかりやすくしたいと地元で「やわらかまじめ新聞」を定期的に発行している。

霞ヶ関のエリート官僚にはなかなか見られないバイタリテイも持ち合わせている。国会答弁でしどろもどろ答えている姿は心もとないが、叩き上げから選挙に勝ち続ける有能な議員が、何故大臣になると醜態をさらしてしまふのだろうか？

その原因の一つに、日本の村社会の悪しき側面が挙げられよう。選挙に勝ち続けるためには、マメに地元のイベントや冠婚葬祭に顔を出し続け、酒をついでまわらないと票が集まらない。夜の宴会では難しい政策の話よりも、カラオケを歌って宴会芸者に徹することが求められる。私の知人の関係経験者の某氏は「宴会で政策について話そうとしたら、そんなことより得意の演歌歌ってくれ」とか言われて脱力した」と

こぼしていた。

政治家達の多くは日々の行事に追われ、政策を勉強する間もない。にもかかわらず議員を続けられるのは、当選し続けられれば、国会では官僚がサポートして議会質問や答弁を書いてくれるので何とかなっているから。さすがに国会ともなると野党の追及も厳しいので、官僚もサポートしきれず紛糾する事も多々あるが…。

結局、議員のレベルを上げ国策を論じる国会に変えるなら、大マスコミの報道姿勢と行事に顔を出す事ばかり求める有権者の意識改革、それに国家観を持った政治家、この三つ巴作戦でレベルアップをはかる必要があるだろう。